

「2006-2008年秋田県がん5年相対生存率」について

1 「秋田県地域がん登録委員会」における検討経緯

平成23年10月6日	地域がん登録開始後5年経過を踏まえて、生存率の公表について協議し、生存率データの収集が可能な方法を検討することとした。
平成24年10月25日	生存率算出のための死亡情報の収集方法、公表年の範囲について協議し、住民票照会を実施せず死亡票から把握すること、公表年は「 <u>2006～2009年症例</u> 」とすることとした。
平成25年12月19日	平成24年度合意に基づき、「 <u>2006年～2008年症例</u> 」について既存集計報告とは別報告で、平成26年9月を目途に公表することとした。また、Kaplan-Meier法で実測生存率を、Ederer II法で相対生存率を算出することとした。
平成26年10月9日	戸堀委員が取りまとめた部位別・発見経緯別・年齢階級別生存率に基づき、公表内容、公表方法について協議した。事務局で公表のためのたたき台を作成し再協議することとした。
平成27年5月27日	事務局作成「たたき台」について、各委員に照会。

※委員から提出された意見

項目	意見内容
5年相対生存率とは	「5年後に生存している人の割合が～に比べてどのくらい低いかで表す。」を「5年後に生存している人の割合が、日本人全体で5年後に生存している人を100%としたとき何%になるかで表す。」などわかりやすい表現に改めること。
5年相対生存率の算出方法	算出対象の項において、地域がん登録の手引きに従い、除くものに「上皮内がん（大腸粘膜がんを含む）」を追加し、これに基づき集計すること。 「3. 5年相対生存率の算出対象」と「4. 5年相対生存率の算出方法」に項目を分けること。
データの取り扱いについての留意点	最後の行を「注意が必要」を「注意が必要である。」に改めること。
表1-1	主要部位は3年間分、部位別は1年間分になっているが、全て3年間分とすること。
表1-2	同上

表 2	3年間分として、剖検例を含めること。
	このグラフが最も大切であるが、「がん検診」の棒グラフの色が薄くてわかりづらい。見えやすい色に変更すること。
表 3	上皮内がんは除いているとあるが、大腸粘膜がんの取扱はどのようにしているのか。また、不明の区分を含めること。
	このグラフが最も大切であるが、「限局がん」の棒グラフの色が薄くてわかりづらい。見えやすい色に変更すること。

2 事務局「たたき台」の内容（資料10参照）

(1) 公表の概要（背景、5年相対生存率とは、算出方法、留意点）

(2) 結果

- ・ 主要部位別、部位別、発見経緯別、臨床進行度別の5年相対生存率について男女別にグラフ化
- ・ 各グラフに解説を付記

3 公表方法について

戸堀委員取りまとめの詳細版と事務局作成の概要版について、平成28年3月開催予定の「秋田県健康づくり審議会」において報告・公表する。

また、県ホームページへ掲載するとともに、市町村等へ配付する。

4 スケジュール

平成28年2月	第2回がん登録部会（公表案の決定、来年度以降の取扱等）
平成28年3月	「健康づくり審議会」への報告（審議会は公開） 県ホームページ掲載、報道発表（要検討） 市町村、関係団体、都道府県への配布

※県議会への報告時期、方法については今後検討。